

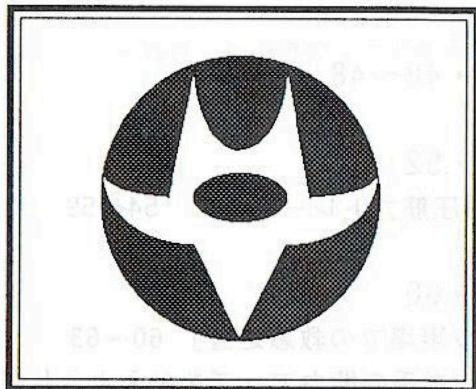
ISSN 1344-2473

Hiroshima-ken trainer Kyokai nenkaishi

Journal of Hiroshima Trainers Association

広島県トレーナー協会 年会誌

第 24 卷 2022



広島県トレーナー協会
HIROSHIMA TRAINERS ASSOCIATION

目次

広島県トレーナー協会年会誌 卷頭言

広島県トレーナー協会会長 浦辺 幸夫-----1

第 77 回国民体育大会（中国ブロック大会・いちご一會とちぎ国体） 活動報告書

競技種目（種別） 自転車競技（ロードレース・トラックレース）

所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室

氏名 田城 翼-----2

競技種目（種別） 水泳（競泳）

所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室

氏名 村田菜奈子-----4

競技種目（種別） 剣道(成年男子)

所属 中国電力(株)中電病院

氏名 山本 真土-----5

競技種目（種別） サッカー（少年女子）

所属 広島さくら整形外科

氏名 梵 直矢-----7

競技種目（種別） ハンドボール（成年男子）

所属 浜脇整形外科病院 リハビリテーション科

氏名 園生 真弘-----8

競技種目（種別） ハンドボール（少年男子）

所属 Empower Life

氏名 大岡 恒雄-----9

競技種目（種別） ラグビーフットボール競技（成年男子）
所属 朝日医療専門学校広島校
氏名 河原 一仁-----11

競技種目（種別） ホッケー（成年女子）
所属 おかもと整形外科クリニック
氏名 相原 一勢-----12

競技種目（種別） 陸上競技 全種別
所属 のぞみ整形外科スタジアム前クリニック
氏名 大賀 春樹-----16

競技種目（種別） バスケットボール（少年男子）
所属 広島大学大学院医系科学研究科
氏名 尾上 仁志-----19

競技種目（種別） バスケットボール（少年女子）
所属 広島国際大学
氏名 加藤 茂幸-----21

競技種目（種別） ソフトテニス成年女子
所属 ななほし堂鍼灸院
氏名 梶山 祥子-----25

第 22 回全国障害者スポーツ大会（いちごー会とちぎ大会） 活動報告書

競技種目（種別） ボッチャ競技
所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名 石田 礼乃-----26

競技種目（種別） 卓球 （一般卓球）
所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名 長尾 拓海-----27

協会活動報告（2022年度）-----28

広島県トレーナー協会規約 -----30

編集後記-----37

広島県トレーナー協会年会誌　巻頭言

広島大学大学院医系科学研究科
スポーツリハビリテーション学研究室
広島県トレーナー協会　会長　浦辺幸夫



本年度も広島県トレーナー協会の年会誌を発行することができました。今回からペーパーレスでの発行となります。これもひとえに、会員の皆様の積極的な活動の賜物であり、年会誌を通して活動が報告できることを大変嬉しく思います。

2020 年度からはじまった新型コロナウイルスの影響によって当協会で継続してきた多くの事業が中止となり、会員の活動の場も縮小されました。世間では With コロナがうたわれ、私たちの生活様式も大きく変化を求められました。いつ新型コロナウイルスは収束するのかという不安が続く中、本年度にはスポーツの世界的祭典の一つである FIFA ワールドカップ カタール大会も開催され、再びスポーツに対する人々の意識を向上させたことは間違いないと思います。

当協会の活動を振り返ってみても、2022 年度は 8 月のばらのまち福山ローズカップや 8~10 月の栃木県での国民体育大会、11 月のサイクリングしまなみなどが現地開催されるなど活動の場が戻りつつあり、会員の皆様と現場にて顔を合わせて活動する機会が増えたと感じております。また 12 月には、昨年度に続き第 26 回広島県トレーナー協会 研修会を無事対面形式で開催でき、皆様と情報共有できたことも大変大きな収穫であったと思います。これらは大変喜ばしいことであるとともに、新型コロナウイルス感染拡大という類を見ない状況を脱しつつある今、スポーツ選手や愛好者に寄り添うトレーナーとしての使命を再び全うできるまたとない機会です。

2022 年度も会員の皆様たいへんお世話になりました。本誌面をもって会員の皆様に感謝の言葉を述べさせていただきます。新型コロナウイルスが収束に向かいつつある今、皆様のますますのご活躍を祈念しております。

2023 年 3 月 広島県トレーナー協会 会長 浦辺幸夫

第 77 回国民体育大会
(中国ブロック大会・いちご一會とちぎ国体)
活動報告書

第77回国民体育大会（中国ブロック大会・いちご一會とちぎ国体）

競技種目（種別）　自転車競技（ロードレース・トラックレース）

所属　広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名　田城 翼

【はじめに】

この度、いちご一會とちぎ国体（第77回国民体育大会）での自転車競技に、広島県チームのトレーナーとして帯同させていただく機会を得たので、そこで経験できたことを報告する。

【事前準備】

自転車競技における外傷・障害の発生状況を過去の傷害調査報告から確認した。落車による外傷の発生が考えられたため、軟膏やガーゼ、保護用フィルムなどの用品を備えた。

大会中の悪天候で、気温の低下も予想できたため、レース前の身体保温用に上着の準備も行った。

【活動内容】

主な活動内容は、レース前のウォーミングアップの補助と試合前後のコンディショニング、外傷に対する処置であった。試合前後のコンディショニングは、各選手の競技時間が様ざまであったため、選手とコミュニケーションを図り、対応の時間設定を行った。

栃木県の宇都宮市までの移動手段は、自転車の運送のため、車であった。広島県から約12時間の車移動は、選手が良好なコンディションを保つための妨げとなっているように思われた。

選手対応について、対象部位は大腿部と下腿部が23件と最多であり、次いで殿部が21件であった。コンディショニングの内容としては、ストレッチングが24件、マッサージが24件であった。選手の要望に応じて、対応の強度や頻度、長

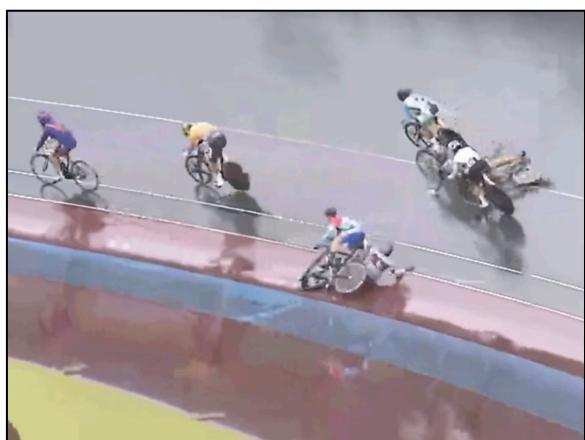


図1 落車の様子

さを調節しながら実施した。対応目的は、疲労回復、リラクゼーションが23件で最も多かった。選手対応の場所は、現場での対応が5件、宿舎では21件であった。

トラックレース中に外傷が1件発生した。相手選手の自転車との接触による落車で、右肘部および右大腿部の擦過傷と、右下腿の打撲を負った

(図1、2)。レース直後に大会医務班から受傷部位の手当が実施された。当日夜、宿舎にて、報告者が右肘部および右大腿部の擦過傷に対する傷口の処置を行った。自転車競技でのトレーナー帶同では、比較的発生しやすい落車での外傷処置の知識を十分に備えておく必要がある。

【結果】

少年男子スクラッチ4位入賞、少年男子ポイントレース8位入賞であった。入賞者が2名あつたことは大きな成果であった。

【反省】

約900kmの長距離移動で始まった本大会では、選手のコンディショニングを維持することが容易ではなかった。下肢の疲労感がうまく抜けないといった選手がおり、ウォーミングアップ前や宿舎でのケアを入念に行い、対応した。落車による擦過傷と打撲が発生したもの、大事に至る傷害はなかった。

最後に、本大会に帯同する機会を与えてくださいました広島県トレーナー協会の皆様に心より感謝申し上げます。



図2 擦過傷の処置

| | |
|------|-------------------------------|
| 競技種目 | 自転車競技 |
| 種別 | ロードレース・トラックレース |
| 帯同期間 | 2022年10月3日 ~ 10月9日(7日間) |
| 競技会場 | 宇都宮競輪場 |
| 選手 | 10名 |
| スタッフ | 監督2名、マネージャー1名、トレーナー1名 |
| 競技成績 | 少年男子スクラッチ4位入賞、少年男子ポイントレース8位入賞 |

トレーナー活動集計表

| 項目 | 対象部位 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 頭部 | 0 |
| ② | 顔面 | 0 |
| ③ | 歯・口腔・顎 | 0 |
| ④ | 頸部 | 2 |
| ⑤ | 肩・鎖骨 | 1 |
| ⑥ | 上腕 | 0 |
| ⑦ | 肘 | 3 |
| ⑧ | 前腕 | 0 |
| ⑨ | 手 | 0 |
| ⑩ | 手指 | 0 |
| ⑪ | 背部 | 3 |
| ⑫ | 胸部 | 1 |
| ⑬ | 腹部 | 0 |
| ⑭ | 腰部 | 2 |
| ⑮ | 臀部 | 21 |
| ⑯ | 股・鼠径部 | 0 |
| ⑰ | 大腿 | 23 |
| ⑱ | 膝 | 0 |
| ⑲ | 下腿・アキレス腱 | 23 |
| ⑳ | 足 | 0 |
| ㉑ | 足趾 | 0 |
| ㉒ | その他 | 0 |

| 項目 | 外傷 | 延べ件数 |
|----|----------------|------|
| ① | 捻挫 | 0 |
| ② | 打撲 | 1 |
| ③ | 骨折 | 0 |
| ④ | 脱臼 | 0 |
| ⑤ | 靭帯断裂 | 0 |
| ⑥ | 筋断裂/肉ばなれ | 0 |
| ⑦ | 腱断裂 | 0 |
| ⑧ | 軟骨損傷(半月板損傷も含む) | 0 |
| ⑨ | 筋膜炎 | 0 |
| ⑩ | 骨膜炎 | 0 |
| ⑪ | 擦過傷 | 1 |
| ⑫ | 刺切傷 | 0 |
| ⑬ | その他 | 0 |

| 項目 | 治療目的 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 鎮痛 | 2 |
| ② | 疲労回復 | 23 |
| ③ | リラクゼーション | 23 |
| ④ | 筋力増強 | 0 |
| ⑤ | 可動域改善 | 0 |
| ⑥ | 安静固定 | 0 |
| ⑦ | 消毒 | 0 |
| ⑧ | 止血 | 0 |
| ⑨ | その他 | 3 |

| 項目 | 治療内容 | 延べ件数 |
|----|-----------|------|
| ① | アイシング | 2 |
| ② | テーピング | 0 |
| ③ | 弾性包帯 | 0 |
| ④ | 簡易装具 | 0 |
| ⑤ | マッサージ | 24 |
| ⑥ | ストレッチング | 24 |
| ⑦ | マニュアルセラピー | 0 |
| ⑧ | ホットパック | 0 |
| ⑨ | 足低板 | 0 |
| ⑩ | 超音波 | 0 |
| ⑪ | 低周波 | 0 |
| ⑫ | 水治療 | 0 |
| ⑬ | その他 | 0 |

| 項目 | 対処場所 | 延べ件数 |
|----|------|------|
| ① | 現場 | 5 |
| ② | 宿舎 | 21 |
| ③ | 医療機関 | 0 |
| ④ | その他 | 0 |

第 77 回国民体育大会（中国ブロック大会・いちごー会とちぎ国体）

競技種目（種別）水泳（競泳）

所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名 村田菜奈子

【はじめに】

この度、いちごー会とちぎ国体（第 77 回国民体育大会）での水泳競技に広島県選手団のトレーナーとして帯同させていただく機会を得たので、ここに報告する。

【事前準備】

国体内定選手（少年）を対象に、7月 25 日（月）～8月 1 日（月）の日程で、長野県の標高約 1,700m の準高地に位置する、GMO アスリーツパーク湯の丸にて強化合宿が行われた。国体での入賞に向け、水中練習前のウォーミングアップ、練習後のストレッチング、クーリングダウンの指導に加え、陸上での補強トレーニングの指導を実施した。さらに、9月 10 日（土）、11 日（日）に広島市総合屋内プール（ひろしんビッグウェーブ）にて開催された中国小・中学高校選手権大会に、国体出場選手（少年）が国体に向けたチーム作りおよび国体を想定したレースを目的として出場した。大会にはトレーナーとして参加し、選手に対してレース前後のコンディショニングを実施した。

例年ではドクターも広島県選手団に帯同するが、コロナウイルスの感染拡大のため困難となつた。事前に連絡をとり、N96 マスクや使い捨て手袋、アルコール消毒液といった個人防護具を手配していただいた。

【活動内容】

9月 16 日（金）に栃木県へ移動し、大会は 9 月 17 日（土）～9月 19 日（月）の 3 日間で開催された。広島県選手団は、監督 1 名、コーチ 2 名、トレーナー 1 名、成年選手 5 名、少年選手 10 名の計 19 名であった。

会場は栃木県総合運動公園 東エリア（日環アリーナ栃木）の屋内水泳場メインプールであった（図 1）。会場と宿舎はバスで約 30 分の距離にあり、県別のバスが運行していた。

大会期間中の主な活動内容は、レース前後のコンディショニング対応であった。レース時間を考慮して、選手または監督、担当コーチと相談し、コンディショニングの時間を決定した。選手の要望を確認した後、1人 20 分～30 分程度でマッサージ、ストレッチングを中心としたケアを行った。ホテルでは、翌日にレースを控えた選手を対象とし、疲労回復を目的としてコンディショニングを

実施した。

感染予防対策として、選手と接触する際には N95 マスクと使い捨て手袋を装着した。加えて、選手の対応が終了するごとにトレーナーベッドや使用した道具、手指のアルコール消毒を行った。

【結果】

成年男子選手が、100m 平泳ぎに 6 位で入賞した（3 点）。少年選手には入賞者はいなかった。

【反省】

国体予選がピークとなってしまい、国体のレースでベストな結果を出すことができなかつた選手が多くいた。長時間の移動の疲れや他の全国大会とは違い、県の代表として出場することに対する緊張などの要因があるように思われた。担当コーチや選手本人と綿密なコミュニケーションをとり、選手の心身の状態について把握することが重要であると感じた。

最後になりましたが、本大会に帯同する機会を与えてくださいました関係者各位に心より感謝申し上げます。

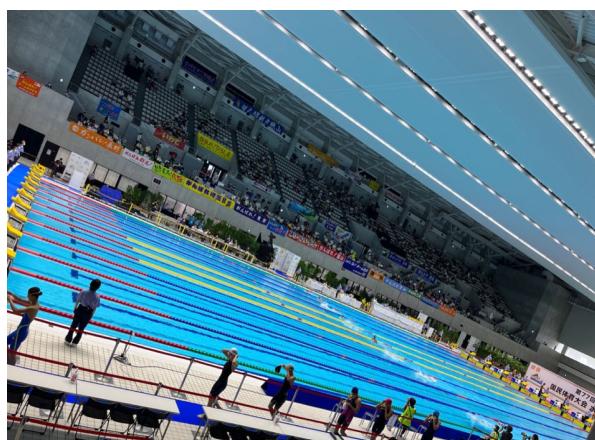


図 1 屋内水泳場メインプール

第77回国民体育大会（いちごー会とちぎ国体）

競技種目（種別） 剣道（成年男子）

所属 中国電力（株）中電病院

氏名 山本 真士

【はじめに】

第77回国民体育大会いちごー会とちぎ大会において、剣道競技（成年男子）のトレーナーとして帯同する機会を得たので報告する。

【事前準備】

剣道競技は少年男女、成年男子、成年女子がそれぞれ大会に向けた事前強化練習や遠征を行う。今年度は、それぞれの種別でトレーナー依頼があり、3名体制での帯同となった。

成年男子の予定として、事前強化合宿（8月30日～31日）、強化練習会（9月23日）に参加する予定であったが、新型コロナウイルス感染症蔓延に伴い、合宿が中止となり参加することができなかった。そのため、選手とは大会前日の移動日に顔合わせとなつた。選手の一部、コーチ、監督はこれまでの大会等で関りがあったことから、顔見知りの関係でありスムーズに情報共有を図ることが出来た。

【活動内容】

剣道競技は10月3日～5日に栃木県宇都宮市のユウケイ武道館（栃木県総合運動公園武道館）で開催された。成年男子は10月4日～5日に試合が行われた。10月2日に栃木県に移動し、同日に近隣の練習会場にて調整稽古を行つた。3日は会場のサブアリーナにて試合に向けた調整稽古を行い、試合に備えた。その際に、選手の体調確認、コンディショニングの把握に加え、これまでの障害、外傷等の既往歴等についても聴取を行つた。試合後は、宿舎でマッサージやストレッチを実施した。

大会当日は、必要な選手に対して、テーピングやアイシングの指導を行つた。サブアリーナの床面がハードであり、通常の環境との違いにより、踵部痛を訴える選手が2名おり、適宜アイシングの施行やサポートー使用の促しを行つた。

また、本大会では大会前、大会期間中、大会後のPCR検査、抗原定量検査が義務付けられており、検査結果を共有しながら大会に挑んだ。

宿舎と大会会場は離れており、移動に時間を要した。

【結果】

～本国体～

1回戦：×沖縄県 2-2（代表勝ち）○広島県

2回戦：○兵庫県 2-1 ×広島県 2回戦敗退（ベスト32）

【反省】

今大会期間中、医療機関を受診するような急性外傷はなく、無事に全日程を終えることができた。一方で、長い競技歴や普段の過酷な稽古により障害を抱えている選手も多く、大会の環境により疼痛が出現し、ケアが必要な選手も複数おり、日ごろからのセルフケアを十分に行う必要があると改めて感じた。

また、今年度はコロナ禍での大会であり、選手、トレーナーともに、活動が十分に行えない中でのサポートであった。例年、事前合宿等で選手の状況を把握することが可能であったが、今年度は短期間で情報収集をしなければならない状況であった。大会前から、関係者と緊密な情報共有が重要であることを感じた。

最後に、帯同の機会を与えてくださいました広島県スポーツ協会、広島県剣道連盟、広島県トレーナー協会、そして大会への帯同にご理解いただいた中電病院スタッフの皆様に感謝申し上げます。



| | |
|------|--------------------------------|
| 競技種目 | 剣道 |
| 種別 | 成年男子 |
| 帯同期間 | 2022年10月2日～2022年10月5日(4日間) |
| 競技会場 | ユウケイ武道館(栃木県総合運動公園武道館) |
| 選手 | 5名 |
| スタッフ | 監督(選手兼任)1名、コーチ1名、トレーナー1名、事務員1名 |
| 競技成績 | 2回戦敗退 |

トレーナー活動集計表

| 項目 | 対象部位 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 頭部 | |
| ② | 顔面 | |
| ③ | 歯・口腔・顎 | |
| ④ | 頸部 | |
| ⑤ | 肩・鎖骨 | |
| ⑥ | 上腕 | |
| ⑦ | 肘 | |
| ⑧ | 前腕 | |
| ⑨ | 手 | |
| ⑩ | 手指 | |
| ⑪ | 背部 | |
| ⑫ | 胸部 | |
| ⑬ | 腹部 | |
| ⑭ | 腰部 | 2 |
| ⑮ | 臀部 | |
| ⑯ | 股・鼠径部 | |
| ⑰ | 大腿 | |
| ⑱ | 膝 | |
| ⑲ | 下腿・アキレス腱 | 2 |
| ⑳ | 足 | 6 |
| ㉑ | 足趾 | |
| ㉒ | その他 | |

| 項目 | 外傷 | 延べ件数 |
|----|----------------|------|
| ① | 捻挫 | |
| ② | 打撲 | |
| ③ | 骨折 | |
| ④ | 脱臼 | |
| ⑤ | 靭帯断裂 | |
| ⑥ | 筋断裂/肉ばなれ | |
| ⑦ | 腱断裂 | |
| ⑧ | 軟骨損傷(半月板損傷も含む) | |
| ⑨ | 筋膜炎 | |
| ⑩ | 骨膜炎 | 2 |
| ⑪ | 擦過傷 | |
| ⑫ | 刺切傷 | 2 |
| ⑬ | その他 | |

| 項目 | 治療目的 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 鎮痛 | 4 |
| ② | 疲労回復 | 4 |
| ③ | リラクゼーション | 4 |
| ④ | 筋力増強 | |
| ⑤ | 可動域改善 | |
| ⑥ | 安静固定 | 1 |
| ⑦ | 消毒 | |
| ⑧ | 止血 | 1 |
| ⑨ | その他 | |

| 項目 | 治療内容 | 延べ件数 |
|----|-----------|------|
| ① | アイシング | 2 |
| ② | テーピング | 2 |
| ③ | 弾性包帯 | |
| ④ | 簡易装具 | |
| ⑤ | マッサージ | 4 |
| ⑥ | ストレッチング | 4 |
| ⑦ | マニュアルセラピー | |
| ⑧ | ホットパック | |
| ⑨ | 足低板 | |
| ⑩ | 超音波 | |
| ⑪ | 低周波 | |
| ⑫ | 水治療 | |
| ⑬ | その他 | 2 |

| 項目 | 対処場所 | 延べ件数 |
|----|------|------|
| ① | 現場 | 4 |
| ② | 宿舎 | 6 |
| ③ | 医療機関 | |
| ④ | その他 | |

第77回国民体育大会（中国ブロック大会・いちご一會とちぎ国体）

競技種目（種別） サッカー（少年女子）

所属 広島さくら整形外科

氏名 梵 直矢

【はじめに】

8月12～14日に開催された少年女子サッカー競技の中国ブロック大会で、広島県選抜チームのトレーナーとして帯同させていただいたので報告する。少年女子サッカーは16歳以下の選手で構成される。中国大会はノックアウト方式で、事前に中国5県でトレセンリーグが開催されており、そこでの順位に応じてトーナメントの組み合わせが決まり1位が本国体へ参加できる。広島のトレセンリーグでの順位は1位であったため2回戦目からの出場となった。会場はエディオンスタジアム広島で行われた。

【事前準備】

チームでの事前練習が何度もあったので監督やコーチ陣とコミュニケーションを取りながらトレーナーとしての役割分担の決定や、事前に準備しなければならない物品等の確認・準備を行った。開催時期は非常に暑い時期だったので、熱中症対策として経口補水液や塩分タブレットの準備、クーリング用の氷の準備を行った。選手ともコミュニケーションやメンタル状態の確認を行った。また選手が普段通っている整形外科の理学療法士や他チームのトレーナーの方から、選手の状態の確認や普段行っているテーピング方法の確認を行った。今回はチームでホテルの宿泊だったので、移動式の治療台を用いてケアをする部屋を確保できるかの確認も行った。

【活動内容】

練習会・試合でのウォーミングアッ

プ、クールダウン、テーピング、試合中の怪我への対応、試合後やホテルで痛みを抱える選手へのコンディショニング、ケア、ストレッチ指導を行った。ホテルでのケアが終了するとそのほかチームの運営がスムーズに行えるようスタッフと連携をとりながら、雑務も積極的に行った。

【結果】

1試合目は山口県との対戦で、3対1で勝利を収めた。2試合目は決勝戦であり対戦相手は岡山県であった。とても均衡した試合で延長戦の末、2対3での敗北であった。少年女子サッカー競技の場合は中国地方から出場できるのは1県のみのため、広島県は本国体への出場ができなかった。

【反省】

今大会では広島県選抜チームのトレーナーとしてとても貴重な経験をさせていただいた。普段私が関わらせていただいているチームの選手の怪我や身体の状態を把握することはできたが、他の選抜チームでしか関わることのできない選手の状態を短期間で把握したり選手のニーズを聴取り対処したりすることの難しさを感じた。そこではより正確で迅速な評価・介入技術が求められるので、私の知識・技術不足を痛感した。また育成年代には特にセルフケアの重要性を感じているので、ホテルでのケアにおいても受動的なものばかりではなく選手自身がセルフケアをすすんで行えるようにセルフケアのアドバイスや環境設定を行っていく必要があると改めて感じた。

第 77 回国民体育大会（中国ブロック大会・いちご一會とちぎ国体）

競技種目（種別）ハンドボール（成年男子）

所属 浜脇整形外科病院 リハビリテーション科
氏名 園生 真弘

【はじめに】

今回、第 77 回国民体育大会中国ブロック大会、いちご一會とちぎ国体において成年男子ハンドボール競技広島県代表競技団体にトレーナーとして帯同した。現地での活動含め、帯同内容を報告する。

【事前準備】

当院にて、応急処置等に対応できるようトレーナーバック、医薬品の準備を行った。日頃より、帯同トレーナー間で各選手の身体状況等情報共有を行っている。試合前日は、翌日必要なテープングの準備を行った。

・中国ブロック大会

大会前日、日本ハンドボールリーグ戦が実施されており帯同トレーナーと情報共有を行った。指定の書類へ大会 2 週間前からの行動記録、体調を記載し当日提出した。

・いちご一會とちぎ国体

現地入り 5 日前に PCR 検査を実施し、陰性確認後移動を開始した。また、現地入り当日に抗原検査した。検査結果と現地入り 2 週間前の行動記録、体調を指定のアプリ（GLOBAL SAFETY）に入力した。

【活動内容】

・中国ブロック大会

試合前日に広島市内のホテルへ宿泊し、マッサージ・ストレッチなどのケアを中心に対応した。対応件数は 8 件。うち、ケア 5 件、テープング 2 件、試合中の対応 1 件であった。対象部位は、頸部、肩、大腿、下腿であった。テープングは肉離れ症状に対して圧迫テープ、膝内側側副靭帯に対して、X サポートとスパイラルテープを行った。試合中の対応は、筋挫傷に対してアイシングを実施した。

・いちご一會とちぎ国体

大会 3 日前より広島県内にて事前合宿を行い、2 日前より移動開始した。事前合宿から帯同終了日までの対応件数は 15 件。すべてケア対応であった。対象部位は、肘、腰、大腿、膝、下腿であ

った。

【結果】

・中国ブロック大会

広島県代表は、シードのため本大会出場は決定している。山口県代表と対戦し、36-22 で勝利し予選 1 位通過した。

・いちご一會とちぎ国体

現地入り当日の抗原検査にて陽性者 1 名。大会本部判断で、大会棄権となった。

【反省】

試合前日の抗原検査にて陽性者 1 名判明したため本大会に参加することができなかった。感染対策（お互いにマスク着用）を行ったうえで対応していたため濃厚接触非該当であった。感染対策は、競技団体に一任していたが医療従事者の立場からすると不要な外出など自粛を呼びかけるなどの感染対策を行っておくべきであった。

謝辞

このたび、貴重な機会をいただき感謝いたします。

第 77 回国民体育大会（中国ブロック大会・いちごー会とちぎ国体）

競技種目（種別）ハンドボール（少年男子）

所属 Empower Life

氏名 大岡 恒雄

【はじめに】

この度、第 77 回国民体育大会中国ブロック大会にハンドボール少年男子のトレーナーとして帯同する機会を得たので報告する。

広島県少年男子ハンドボールチームは選手 14 名、監督 1 名、コーチ 2 名、トレーナー 1 名という構成であった。選手 14 名は県内 6 校から選抜されていた。また、本チームには 2021 年から帯同させていただいており、今回も監督・コーチは昨年同様のメンバーでありスムーズな情報共有ができた。

【事前準備】

ブロック大会前に実施された練習会や県外遠征にも帯同した。練習会は 7 月中旬ごろから 6 日間実施され、そのうち 3 日帯同した。8 月 8 日から 8 月 10 日の期間で愛媛県への強化合宿にも帯同した。

練習会では、全選手の既往歴や現病歴、服薬状況やアレルギーの有無などをメディカルチェックシートにて確認した。今夏も猛暑であったため、熱中症対策として水分補給や塩分補給を促し、コンディション管理の一環として練習前後での体重測定を実施した。なお、選手の身体特性として、身長は $172.1 \pm 5.0\text{cm}$ 、体重は $68.7 \pm 14.1\text{kg}$ であった。

【活動内容】

中国ブロック大会は 8 月 20 日～21 日に広島県呉市の IHI アリーナ呉で開催された。今年は本国体の出場枠が 2 県であり、中国 5 県での総当たりのリーグ戦であった。

大会前日の 8 月 19 日から帯同した。今回、感染症対策の影響により宿泊先で食事提供ができないという情報が事前にあった。そのため、監督から朝・昼・夕の食事の手配やタイムスケジュールなどの役割を任せられていた。19 日は当日の夕食対応と翌日の朝食・補食の買い出しを行った。朝食は近隣スーパーで購入し、夕食は近隣の食堂を事前予約し本チームのみで使用することができた。昼食も同食堂にお願いして配達してもらつた。各食事の献立や補食の選定などもトレーナーが中心となり実施した。また、コロナ禍での大会ということもあり感染症対策はスタッフ間で十分に留意して対応した。

大会前および大会期間中に重大な外傷等はなかった。会場内は空調管理がされており、脱水などの熱中症はなかったが予防として頸部などにアイシングを行うことが多かった。その他として、ウォーミングアップやクールダウンを実施した。大会期間中も体重測定は実施しており、大幅に減少する選手はいなかった。

【結果】

中国ブロック大会 4 位

大会 1 日目（8 月 20 日）

- 広島県 29 – 17 島根県
- 広島県 29 – 35 鳥取県

大会 2 日目（8 月 21 日）

- 広島県 14 – 37 岡山県
- 広島県 18 – 33 山口県

【反省】

今年は本国体出場枠が 2 県ということもあり、練習会や県外遠征など例年より多く実施し強化に努めてきたが、ブロック 4 位で出場権を逃し大変残念な結果となった。大会終了後にスタッフ同士で今大会の課題などを話し合う機会があった。また来年もこのような機会いただければ、本国体出場をサポートできるように尽力していきたい。

最後に今回、帯同の機会を与えてくださいました広島県体育協会、広島県ハンドボール協会、広島県トレーナー協会の皆様には深く感謝申し上げます。

| | |
|------|--------------------|
| 競技種目 | ハンドボール |
| 種別 | 少年男子 |
| 帯同期間 | 2022年8月19日～8月21日 |
| 競技会場 | IHIアリーナ呉(広島県呉市) |
| 選手 | 14名 |
| スタッフ | 監督1名、コーチ2名、トレーナー1名 |
| 競技成績 | 中国ブロック4位 |

トレーナー活動集計表

| 項目 | 対象部位 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 頭部 | 1 |
| ② | 顔面 | |
| ③ | 歯・口腔・顎 | |
| ④ | 頸部 | 14 |
| ⑤ | 肩・鎖骨 | |
| ⑥ | 上腕 | |
| ⑦ | 肘 | |
| ⑧ | 前腕 | |
| ⑨ | 手 | |
| ⑩ | 手指 | |
| ⑪ | 背部 | |
| ⑫ | 胸部 | |
| ⑬ | 腹部 | |
| ⑭ | 腰部 | |
| ⑮ | 臀部 | |
| ⑯ | 股・鼠径部 | |
| ⑰ | 大腿 | 1 |
| ⑱ | 膝 | |
| ⑲ | 下腿・アキレス腱 | |
| ⑳ | 足 | |
| ㉑ | 足趾 | |
| ㉒ | その他 | |

| 項目 | 外傷 | 延べ件数 |
|----|----------------|------|
| ① | 捻挫 | |
| ② | 打撲 | 2 |
| ③ | 骨折 | |
| ④ | 脱臼 | |
| ⑤ | 靭帯断裂 | |
| ⑥ | 筋断裂/肉ばなれ | |
| ⑦ | 腱断裂 | |
| ⑧ | 軟骨損傷(半月板損傷も含む) | |
| ⑨ | 筋膜炎 | |
| ⑩ | 骨膜炎 | |
| ⑪ | 擦過傷 | |
| ⑫ | 刺切傷 | |
| ⑬ | その他 | |

| 項目 | 治療目的 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 鎮痛 | 2 |
| ② | 疲労回復 | 14 |
| ③ | リラクゼーション | |
| ④ | 筋力増強 | |
| ⑤ | 可動域改善 | |
| ⑥ | 安静固定 | |
| ⑦ | 消毒 | |
| ⑧ | 止血 | |
| ⑨ | その他 | |

| 項目 | 治療内容 | 延べ件数 |
|----|-----------|------|
| ① | アイシング | 16 |
| ② | テーピング | |
| ③ | 弾性包帯 | |
| ④ | 簡易装具 | |
| ⑤ | マッサージ | |
| ⑥ | ストレッチング | |
| ⑦ | マニュアルセラピー | |
| ⑧ | ホットパック | |
| ⑨ | 足低板 | |
| ⑩ | 超音波 | |
| ⑪ | 低周波 | |
| ⑫ | 水治療 | |
| ⑬ | その他 | |

| 項目 | 対処場所 | 延べ件数 |
|----|------|------|
| ① | 現場 | 16 |
| ② | 宿舎 | |
| ③ | 医療機関 | |
| ④ | その他 | |

第 77 回国民体育大会（中国ブロック大会・2022 いちごー会とちぎ国体）

競技種目（種別） ラグビーフットボール競技（成年男子）

所属 朝日医療専門学校広島校
氏名 河原 一仁

【はじめに】

第 77 回国民体育大会（2022 いちごー会とちぎ国体）ラグビーフットボール競技成年男子の部の広島県選手団にトレーナーとして同行する機会を得たので報告する。

【事前準備】

ブロック大会前の実施された事前練習、遠征に同行し選手の外傷・傷害の状況、コンディションやテーピングの要望等の把握、そして選手とのコミュニケーションを積極的にとることに努めた。

【活動内容】

ブロック大会は 8 月 27 日、28 日の 2 日間にわたって Balcom BMW Rugby Stadium で行われた。岡山県の棄権に伴い 4 チームでのリーグ戦となりましたが、危なげなく全勝で本大会出場を決めることができた。本大会は 10 月 3 日、4 日の 2 日間にわたって佐野市運動公園で行われた。

予選リーグは 4 チームの総当たり戦を行い、上位 2 チームが翌日の決勝トーナメントに進出するという形式である。広島県チームはまずは予選プール突破を目標に臨みました。

7 人制の特徴は前後半 7 分ハーフ、ハーフタイム 1 分という競技時間となっておりブロック大会では 1 日で 2 試合、本国体では 1 日 3 試合行われる。さらに 1 日目は予選リーグの 24 試合をすべて行うことから、試合間の時間が 1 時間半以上空くこととなり選手のコンディション調整がとても重要になり、とても苦労するところである。また当日は 26.4 度まで気温も上がり熱中症対策も重要となつた。

活動内容としましては、会場ではウォーミングアップ、クールダウン、テーピング、ストレッチ、マッサージ、応急処置を主に行い、宿舎では、ストレッチやマッサー

ジ、電気治療等の対応を行った。

外傷としては、眼瞼の切創、手関節捻挫、大腿部打撲、大腿部肉離れ、足関節捻挫等が発生した。

今年の広島県代表チームは、県内の実業団チームのマツダ与中国電力の選手や OB で構成されており、普段からサポートしている選手とそうでない選手が混在しており、様々な場面で積極的に話しかけたりすることを意識したことで、本大会期間中はしっかりとコミュニケーションをとりながらのサポートができた。

チームとしても過去最高の準優勝という成績を収めることが出来た。

【結果】

ブロック大会 優勝
vs 山口県 (64-0) 勝
vs 島根県 (42-7) 勝
vs 鳥取県 (59-5) 勝

本大会 予選プール
vs 東京都 (19-26) 敗
vs 愛媛県 (43-5) 勝
vs 和歌山県 (27-0) 勝

本大会 決勝トーナメント
1 回戦 vs 北海道 (40-10) 勝
準決勝 vs 大分県 (12-5) 勝
決勝 vs 三重県 (19-24) 敗

【反省】

厳しいスケジュールの中、トレーナー 1 人の環境の中で選手をいかにいい状態にコンディショニングしていくかにとても苦労した。

最後にこのような機会を与えていただいた広島県スポーツ協会、広島県ラグビーフットボール協会、広島県トレーナー協会の関係各位に感謝申し上げます。

第 77 回国民体育大会（中国ブロック大会・いちごー会とちぎ国体）

競技種目（種別） ホッケー（成年女子）

所属 おかもと整形外科クリニック
氏名 相原 一勢

【はじめに】

この度、第 77 回国民体育大会および中国ブロック大会においてホッケー成年女子チームのトレーナーとして帯同する機会を得たので、事前準備を含めた活動内容について報告する。

【事前準備】

チームは日頃よりトレーナー帯同している実業団単独チーム（コカ・コーラボトラーズジャパン ホッケー部）であったため、選手の体調やコンディショニング状況については日常から把握していた。

ホッケーは 11 名でおこなう競技だが、国体はルール上、選手の登録人数が 14 名と少なく、ホッケー競技は幾度でも選手交代が可能である為、ハードワークを強いられる。また、勝ち進めば、決勝まで 3 日連続での試合となるため、試合後の各選手のコンディショニング管理が特に重要なとなる。中国ブロック大会は暑い中の試合となることが予想されるので、練習前後の体重測定、練習時の個々の水分摂取量を把握することで、練習前後の体重減少が大きい選手に関しては、こまめに水分を摂取するよう促した。また、このような情報をチームスタッフと共有した。

【活動内容】

中国ブロック大会は、8月20日、21日に広島県の広域公園第二球技場にて開催された。今年も非常に気温が高く、熱中症予防のため、水分補給の管理と氷袋を用いた身体の冷却を重点的に行なった。

本国体は10月1日～6日、栃木県今市青少年スポーツセンター人工芝競技場今市青少年スポーツセンター人工芝競技場にて開催され、10月4日から1日1試合ずつ行われた。14名という、

交代の枠が限られた人数で、3日間連続で試合に臨まなければならない。そのため、試合後の疲労を蓄積させないよう、コンディショニングを重点的に行った。コロナ感染予防として、食事以外のマスク着用、宿舎の部屋の換気を徹底した。

試合前のコンディショニングとして、試合時間が朝早かったり、昼過ぎに行われたりとバラバラであったため、前日の夕食時間、消灯時間、朝食の時間、補食を摂る時間を調整した。

今大会の準々決勝でのウォーミングアップ中に足首を捻った選手がいた。腫れや動作時痛はなく、テーピング固定でプレーに支障無く、3試合出場することができた。

【結果】

中国ブロック大会 第1位

| | | |
|-----|------|-------|
| 準決勝 | 15—0 | 山口県代表 |
| 決勝 | 11—0 | 鳥取県代表 |

本国体 準優勝

| | | |
|------|------|-------|
| 準々決勝 | 10—1 | 香川県代表 |
| 準決勝 | 5—0 | 栃木県代表 |
| 決勝 | 1—3 | 岐阜県代表 |

【反省】

国体8連覇をかけた国体であったが、決勝で敗れ準優勝となってしまった。

決勝戦で脚が轟りかけた選手もいたため、試合後の選手のコンディションをより詳細に把握しておくべきだった。

最後になりましたが今回、このような帯同の機会をいただいた広島県体育協会、広島県ホッケー協会、広島県トレーナー協会各位、チームの選手やスタッフの方々、当院院長をはじめクリニック関係各位に深く感謝致します。

2022 栃木国体(中国ブロック大会)

| | |
|------|-----------------------------|
| 競技種目 | ホッケー |
| 種別 | 成年女子 |
| 帯同期間 | 2022年8月19日～21日(3日間) |
| 競技会場 | 広島広域公園第二球技場 |
| 選手 | 21名 |
| スタッフ | 監督1名、コーチ2名、マネージャー2名、トレーナー2名 |
| 競技成績 | 第1位 |

トレーナー活動集計表

| 項目 | 対象部位 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 頭部 | |
| ② | 顔面 | |
| ③ | 歯・口腔・顎 | |
| ④ | 頸部 | |
| ⑤ | 肩・鎖骨 | |
| ⑥ | 上腕 | |
| ⑦ | 肘 | |
| ⑧ | 前腕 | |
| ⑨ | 手 | |
| ⑩ | 手指 | |
| ⑪ | 背部 | 2 |
| ⑫ | 胸部 | |
| ⑬ | 腹部 | |
| ⑭ | 腰部 | 10 |
| ⑮ | 臀部 | 4 |
| ⑯ | 股・鼠径部 | |
| ⑰ | 大腿 | 2 |
| ⑱ | 膝 | 1 |
| ⑲ | 下腿・アキレス腱 | 3 |
| ⑳ | 足 | 3 |
| ㉑ | 足趾 | |
| ㉒ | その他 | |

| 項目 | 治療目的 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 鎮痛 | 5 |
| ② | 疲労回復 | 9 |
| ③ | リラクゼーション | 4 |
| ④ | 筋力増強 | 1 |
| ⑤ | 可動域改善 | 6 |
| ⑥ | 安静固定 | |
| ⑦ | 消毒 | |
| ⑧ | 止血 | |
| ⑨ | その他 | |

| 項目 | 治療内容 | 延べ件数 |
|----|-----------|------|
| ① | アイシング | |
| ② | テーピング | 6 |
| ③ | 弾性包帯 | |
| ④ | 簡易装具 | |
| ⑤ | マッサージ | 12 |
| ⑥ | ストレッチング | 12 |
| ⑦ | マニュアルセラピー | 2 |
| ⑧ | ホットパック | |
| ⑨ | 足低板 | |
| ⑩ | 超音波 | 5 |
| ⑪ | 低周波 | 1 |
| ⑫ | 水治療 | |
| ⑬ | その他 | |

| 項目 | 外傷 | 延べ件数 |
|----|----------------|------|
| ① | 捻挫 | |
| ② | 打撲 | |
| ③ | 骨折 | |
| ④ | 脱臼 | |
| ⑤ | 靭帯断裂 | |
| ⑥ | 筋断裂/肉ばなれ | |
| ⑦ | 腱断裂 | |
| ⑧ | 軟骨損傷(半月板損傷も含む) | |
| ⑨ | 筋膜炎 | |
| ⑩ | 骨膜炎 | |
| ⑪ | 擦過傷 | |
| ⑫ | 刺切傷 | |
| ⑬ | その他 | |

| 項目 | 対処場所 | 延べ件数 |
|----|------|------|
| ① | 現場 | 6 |
| ② | 宿舎 | 14 |
| ③ | 医療機関 | |
| ④ | その他 | |

2022 栃木国体

| | |
|------|-----------------------------|
| 競技種目 | ホッケー |
| 種別 | 成年女子 |
| 帯同期間 | 2022年10月1日～6日(6日間) |
| 競技会場 | 今市青少年スポーツセンター人工芝競技場 |
| 選手 | 21名 |
| スタッフ | 監督1名、コーチ2名、マネージャー2名、トレーナー1名 |
| 競技成績 | 第2位 |

トレーナー活動集計表

| 項目 | 対象部位 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 頭部 | |
| ② | 顔面 | |
| ③ | 歯・口腔・顎 | |
| ④ | 頸部 | 4 |
| ⑤ | 肩・鎖骨 | |
| ⑥ | 上腕 | |
| ⑦ | 肘 | |
| ⑧ | 前腕 | |
| ⑨ | 手 | |
| ⑩ | 手指 | |
| ⑪ | 背部 | 6 |
| ⑫ | 胸部 | |
| ⑬ | 腹部 | |
| ⑭ | 腰部 | 23 |
| ⑮ | 臀部 | 6 |
| ⑯ | 股・鼠径部 | 2 |
| ⑰ | 大腿 | 11 |
| ⑱ | 膝 | 5 |
| ⑲ | 下腿・アキレス腱 | 2 |
| ⑳ | 足 | 9 |
| ㉑ | 足趾 | |
| ㉒ | その他 | |

| 項目 | 外傷 | 延べ件数 |
|----|----------------|------|
| ① | 捻挫 | 1 |
| ② | 打撲 | |
| ③ | 骨折 | |
| ④ | 脱臼 | |
| ⑤ | 靭帯断裂 | |
| ⑥ | 筋断裂/肉ばなれ | |
| ⑦ | 腱断裂 | |
| ⑧ | 軟骨損傷(半月板損傷も含む) | |
| ⑨ | 筋膜炎 | |
| ⑩ | 骨膜炎 | |
| ⑪ | 擦過傷 | |
| ⑫ | 刺切傷 | |
| ⑬ | その他 | |

| 項目 | 治療目的 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 鎮痛 | 12 |
| ② | 疲労回復 | 27 |
| ③ | リラクゼーション | 12 |
| ④ | 筋力増強 | |
| ⑤ | 可動域改善 | 9 |
| ⑥ | 安静固定 | 1 |
| ⑦ | 消毒 | |
| ⑧ | 止血 | |
| ⑨ | その他 | |

| 項目 | 治療内容 | 延べ件数 |
|----|-----------|------|
| ① | アイシング | 12 |
| ② | テーピング | 23 |
| ③ | 弾性包帯 | |
| ④ | 簡易装具 | |
| ⑤ | マッサージ | 40 |
| ⑥ | ストレッチング | 34 |
| ⑦ | マニュアルセラピー | 11 |
| ⑧ | ホットパック | |
| ⑨ | 足低板 | |
| ⑩ | 超音波 | 10 |
| ⑪ | 低周波 | 2 |
| ⑫ | 水治療 | |
| ⑬ | その他 | |

| 項目 | 対処場所 | 延べ件数 |
|----|------|------|
| ① | 現場 | 22 |
| ② | 宿舎 | 47 |
| ③ | 医療機関 | |
| ④ | その他 | |



第 77 回国民体育大会（いちごー会とちぎ国体）

競技種目（種別）陸上競技 全種別

所属 のぞみ整形外科スタジアム前クリニック
氏名 大賀春樹

【はじめに】第 77 回国民体育大会（2022 いちごー会とちぎ国体）陸上競技の部において、広島県選手団にトレーナーとして帯同する機会を得たので、事前準備を含めた活動内容について報告する。

【事前準備】本大会まで広島県スポーツ協会スポーツ医・科学サポート事業を利用して、少年国体候補選手に対し年間を通して訪問した。選手からの聴取をもとに体力測定や評価を行い、競技力向上を目的としたセルフコンディショニングの指導・教育を行った。候補選手が所属する計 18 校に、国体トレーナーを含めた計 7 名のトレーナーがこの事業に参加し、選手の情報共有を行いながら継続的にサポートを行った。

大会に向けて強化合宿が 2 回行われた。1 回目は 8 月 12~14 日に現地の栃木県総合運動公園で行われ、トレーナー 1 名が帯同した。2 回目は 9 月 18 日~19 日に広島で行われ、トレーナー 3 名が帯同した。2 回目の合宿では、台風の影響により 2 日目の練習が中止となった。メディカルチェックシートを作成し、選手のコンディションや服薬の情報を収集し、短い時間であったが気になった点をドクターやコーチ陣に共有し、本大会へ臨んだ。

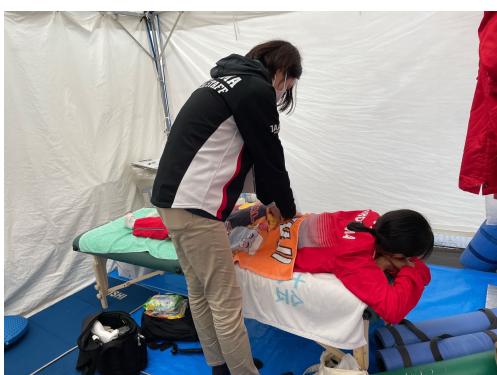
【活動内容】本大会は 10 月 6 日~10 日に、笠松運動公園陸上競技場にて開催された。本大会は全日程を通して 3 名のトレーナーが帯同した。ドクター 1 名は 3 日間の帯同であった。主な活動内容は、チームテント内で選手のコンディショニングやテーピング、鎮痛や疲労除去を目的とした物理療法などであった。また、周囲の選手と関わりづらそうな選手のフォローやチーム全体を不安にさせないように努めた。

外傷に関して、レース中に大腿部を負傷し医務室へ搬送された選手がいた。大会のオフィシャルである、日本陸上競技連盟のトレーナー・ドクターにも協力を頂き、対応した。その後、トレーナーが付き添い病院を受診した。

【結果】優勝 2 名（成年男子 110mH・成年男子三段跳）、入賞 8 名、総合 22 位（52 点）という結果であった。少年女子選手において多くの入賞者を出すことができた。

【反省】今年度はコロナウイルス感染症が流行してから初めての開催となった。常時換気、マスク装着、3 密回避を徹底し感染者を出さず大会を終えることが課題であった。継続的な雨天と低気温でチームメント内の室温が下がる為、大々的に換気をできなかった。また、その中には全員が入るには狭すぎた為、人と人同士の距離も近くなり易かった。チーム全体で意識して行動したため感染者を出さず無事に終えることができたが、今後のためにも対策を考え続ける必要がある。

最後に、今回このような帯同の機会をいただいた広島県スポーツ協会、広島県陸上競技協会、広島県トレーナー協会各位に深く感謝いたします。



| | |
|------|---------------------------|
| 競技種目 | 陸上競技 |
| 種別 | 全種別 |
| 帯同期間 | 2022/10/5～10/10(6日間) |
| 競技会場 | 宇都宮市 カンセキスタジアムとちぎ |
| 選手 | 29名 |
| スタッフ | 監督2名 コーチ8名 ドクター1名 トレーナー3名 |
| 競技成績 | 22位 (総合52点) |

トレーナー活動集計表

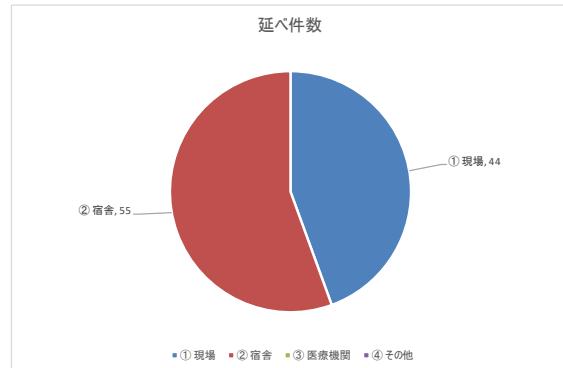
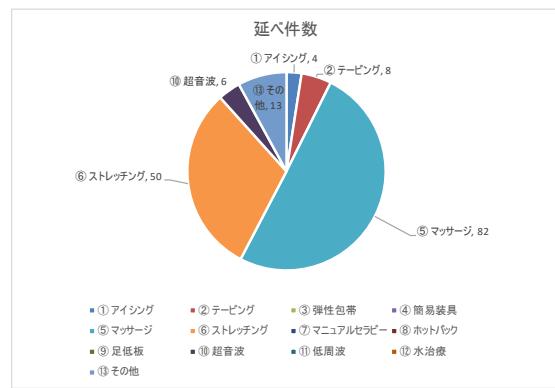
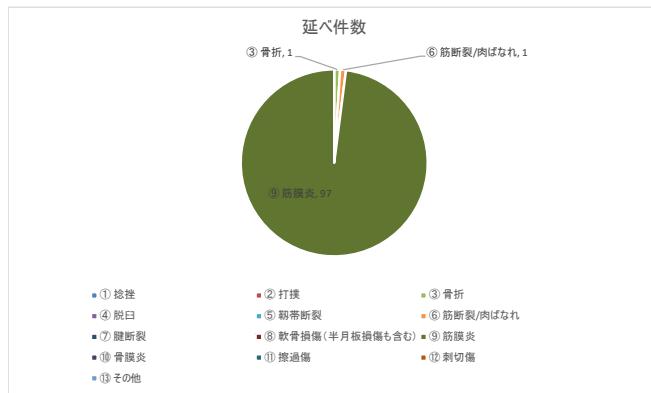
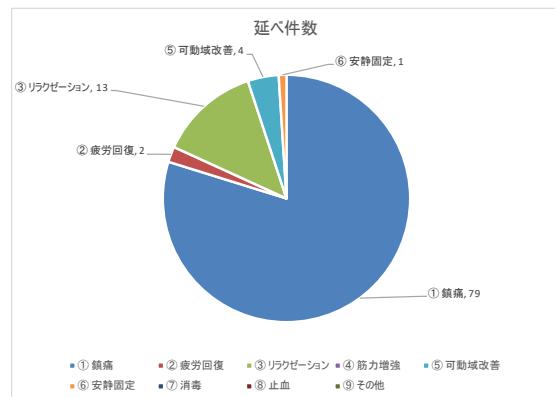
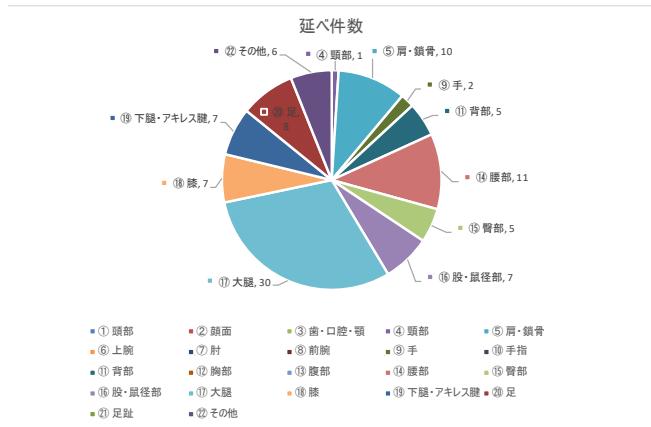
| 項目 | 対象部位 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 頭部 | |
| ② | 顔面 | |
| ③ | 歯・口腔・顎 | |
| ④ | 頸部 | 1 |
| ⑤ | 肩・鎖骨 | 10 |
| ⑥ | 上腕 | |
| ⑦ | 肘 | |
| ⑧ | 前腕 | |
| ⑨ | 手 | 2 |
| ⑩ | 手指 | |
| ⑪ | 背部 | 5 |
| ⑫ | 胸部 | |
| ⑬ | 腹部 | |
| ⑭ | 腰部 | 11 |
| ⑮ | 臀部 | 5 |
| ⑯ | 股・鼠径部 | 7 |
| ⑰ | 大腿 | 30 |
| ⑱ | 膝 | 7 |
| ⑲ | 下腿・アキレス腱 | 7 |
| ⑳ | 足 | 8 |
| ㉑ | 足趾 | |
| ㉒ | その他 | 6 |

| 項目 | 外傷 | 延べ件数 |
|----|----------------|------|
| ① | 捻挫 | |
| ② | 打撲 | |
| ③ | 骨折 | 1 |
| ④ | 脱臼 | |
| ⑤ | 靭帯断裂 | |
| ⑥ | 筋断裂/肉ばなれ | 1 |
| ⑦ | 腱断裂 | |
| ⑧ | 軟骨損傷(半月板損傷も含む) | |
| ⑨ | 筋膜炎 | 97 |
| ⑩ | 骨膜炎 | |
| ⑪ | 擦過傷 | |
| ⑫ | 刺切傷 | |
| ⑬ | その他 | |

| 項目 | 治療目的 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 鎮痛 | 79 |
| ② | 疲労回復 | 2 |
| ③ | リラクゼーション | 13 |
| ④ | 筋力増強 | |
| ⑤ | 可動域改善 | 4 |
| ⑥ | 安静固定 | 1 |
| ⑦ | 消毒 | |
| ⑧ | 止血 | |
| ⑨ | その他 | |

| 項目 | 治療内容 | 延べ件数 |
|----|-----------|------|
| ① | アイシング | 4 |
| ② | テーピング | 8 |
| ③ | 弾性包帯 | |
| ④ | 簡易装具 | |
| ⑤ | マッサージ | 82 |
| ⑥ | ストレッチング | 50 |
| ⑦ | マニュアルセラピー | |
| ⑧ | ホットパック | |
| ⑨ | 足低板 | |
| ⑩ | 超音波 | 6 |
| ⑪ | 低周波 | |
| ⑫ | 水治療 | |
| ⑬ | その他 | 13 |

| 項目 | 対処場所 | 延べ件数 |
|----|------|------|
| ① | 現場 | 44 |
| ② | 宿舎 | 55 |
| ③ | 医療機関 | |
| ④ | その他 | |



第 77 回国民体育大会（中国ブロック大会・いちごー会とちぎ国体）

競技種目（種別）バスケットボール（少年男子）

所属 広島大学大学院医系科学研究科
氏名 尾上 仁志

【はじめに】

この度、第 77 回国民体育大会中国ブロック大会に出場したバスケットボール少年男子のトレーナーとして帯同させていただく機会を得ましたので、報告いたします。

【事前準備】

チームスタッフは監督 1 名、コーチ 2 名、マネージャー 1 名、医師 1 名、トレーナー 1 名、選手は 12 名でした。問診票を記入してもらい、個体要因の把握、服薬状況を最初に把握しました。選手一人一人とコミュニケーションを取り現在のコンディションについて情報を聴取しました。

問診票にて足関節捻挫の既往のある選手が 12 人中 9 名であり事前にテープングの施行の必要がありそうな選手に対し足関節捻挫の予防のテープングを行いました。

【活動内容】

事前に練習や練習試合があり、できる限り参加しました。今年も県外遠征が予定として組まれていましたが、コロナ禍であったため中止となりました。

事前練習や練習試合では、特に大きな外傷はありませんでしたが、膝蓋腱炎やシンスプリントなどの慢性的な症状を訴える選手が多かった印象です。そのような選手に関しては、監督やコーチと相談し、練習や負荷量の調整を行い大会にピークをもっていけるように努めました。また、コロナ禍ということもあり国体の練習がない日も毎日健康チェックとして、選手の体温を監督とコーチ、トレーナーで共有しました。また、熱中症対策として積極的な水分や塩分の補給を促しながら帯同しました。

第 77 回国民体育大会中国ブロック大会は、2022 年 8 月 26・28 日の期間で開催されました。コロナウイルスの流行もあり影響もあり開催は、3 年ぶりでした。

初日は練習のみであり、良い雰囲気で終えることができました。開催県であったため、午前中の公開練習後も近隣の施設を利用して、大会

に備えることができました。

1 回戦の岡山戦、2 回戦の島根戦の前にそれぞれ足関節捻挫予防のテaping を 2 件、手関節のテaping を 1 件実施しました。試合中に急性外傷は発生しませんでした。宿舎では選手それぞれの部屋を訪問し、アイシングやケアを行い外傷のチェック、疲労度の確認を行いました。

3 回戦の山口戦、4 回戦の鳥取戦の前に足関節捻挫予防のテaping をそれぞれ 2 件、手関節のテaping を 1 件実施しました。

【結果】

結果を以下に示す。

会場：広島県立総合体育館

| | | | | | |
|-----|-----|----|---|----|-----|
| 1回戦 | ●広島 | 68 | 対 | 81 | ○岡山 |
| 2回戦 | ●広島 | 63 | 対 | 75 | ○島根 |
| 3回戦 | ●広島 | 64 | 対 | 73 | ○山口 |
| 4回戦 | ●広島 | 72 | 対 | 73 | ○鳥取 |

※結果は 0 勝 4 敗で 5 位であり本国体出場はなりませんでした

【反省】

本大会期間中は、コロナ禍ということもありチームスタッフや選手は、感染対策を徹底し事前練習や大会に臨みました。トレーナーとしては、アルコールでの手指消毒やマスクの着用、宿舎での換気を徹底して行いました。大会期間中は体調不良などを訴える選手もおらず終えることができました。

本大会は、全敗という結果であり、トレーナーとして短期間でチーム強化のためにどのような介入ができるのか課題となりました。これは、コンディショニングを含めた試合前後のアップやクールダウンなどを再考する必要があると思っております。

最後にこのような貴重な機会を与えて下さった広島県体育協会、広島県バスケットボール協会、広島県トレーナー協会の皆様に深謝いたします。

| | |
|------|---------------|
| 競技種目 | バスケットボール |
| 種別 | 少年男子 |
| 帯同期間 | 2022年8月26~28日 |
| 競技会場 | 広島県立総合体育館 |
| 選手 | 12名 |
| スタッフ | 6名 |
| 競技成績 | 5位 |

トレーナー活動集計表

| 項目 | 対象部位 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 頭部 | |
| ② | 顔面 | |
| ③ | 歯・口腔・顎 | |
| ④ | 頸部 | |
| ⑤ | 肩・鎖骨 | |
| ⑥ | 上腕 | |
| ⑦ | 肘 | |
| ⑧ | 前腕 | |
| ⑨ | 手 | 4 |
| ⑩ | 手指 | |
| ⑪ | 背部 | |
| ⑫ | 胸部 | |
| ⑬ | 腹部 | |
| ⑭ | 腰部 | |
| ⑮ | 臀部 | |
| ⑯ | 股・鼠径部 | |
| ⑰ | 大腿 | |
| ⑱ | 膝 | 1 |
| ⑲ | 下腿・アキレス腱 | |
| ⑳ | 足 | 10 |
| ㉑ | 足趾 | |
| ㉒ | その他 | |

| 項目 | 外傷 | 延べ件数 |
|----|----------------|------|
| ① | 捻挫 | |
| ② | 打撲 | |
| ③ | 骨折 | |
| ④ | 脱臼 | |
| ⑤ | 靭帯断裂 | |
| ⑥ | 筋断裂/肉ばなれ | |
| ⑦ | 腱断裂 | |
| ⑧ | 軟骨損傷(半月板損傷も含む) | |
| ⑨ | 筋膜炎 | |
| ⑩ | 骨膜炎 | |
| ⑪ | 擦過傷 | |
| ⑫ | 刺切傷 | |
| ⑬ | その他 | |

| 項目 | 治療目的 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 鎮痛 | |
| ② | 疲労回復 | 4 |
| ③ | リラクゼーション | 3 |
| ④ | 筋力増強 | |
| ⑤ | 可動域改善 | |
| ⑥ | 安静固定 | |
| ⑦ | 消毒 | |
| ⑧ | 止血 | |
| ⑨ | その他 | |

| 項目 | 治療内容 | 延べ件数 |
|----|-----------|------|
| ① | アイシング | 6 |
| ② | テーピング | 14 |
| ③ | 弾性包帯 | |
| ④ | 簡易装具 | |
| ⑤ | マッサージ | 3 |
| ⑥ | ストレッチング | 3 |
| ⑦ | マニュアルセラピー | |
| ⑧ | ホットパック | |
| ⑨ | 足低板 | |
| ⑩ | 超音波 | |
| ⑪ | 低周波 | |
| ⑫ | 水治療 | |
| ⑬ | その他 | |

| 項目 | 対処場所 | 延べ件数 |
|----|------|------|
| ① | 現場 | 14 |
| ② | 宿舎 | 12 |
| ③ | 医療機関 | 0 |
| ④ | その他 | 0 |

第 77 回国民体育大会（いちごー会とちぎ国体）

競技種目（種別）バスケットボール（少年女子）

所属 広島国際大学

氏名 加藤 茂幸

【はじめに】

この度、第 77 回国民体育大会中国ブロック大会および第 77 回国民体育大会（いちごー会とちぎ国体）にトレーナーとして帯同する機会を得たので報告します。

広島県少年女子バスケットボールチームは選手 12 名・ヘッドコーチ・アシスタントコーチ・トレーナーという構成だった。

選手の平均年齢は 15.3 ± 0.5 歳、身長 164.2 ± 8.0 cm、体重 56.8 ± 6.1 kg、競技歴 7.8 ± 1.4 年だった。

【事前準備】

事前に外傷調査シートを作成し、全選手の既往歴および現病歴を把握した。また、現在、服用している薬の有無についても把握し、アンチ・ドーピング教育を行った。

【中国ブロック大会】

中国ブロック大会の開催期間は 2022 年 8 月 26 日から 28 日までの 3 日間だった。競技会場は広島県立総合体育館大アリーナだった。中国 5 県で 3 位まで本国体への出場という条件下で戦った。

| | | | | |
|-----|----|---|----|-----|
| ○広島 | 60 | - | 56 | 山口● |
| ●広島 | 54 | - | 55 | 島根○ |
| ○広島 | 63 | - | 62 | 鳥取● |
| ●広島 | 62 | - | 76 | 岡山○ |

2 勝 2 敗で 2 位となり、とちぎ国体への進出を決めた。

帯同期間中の対応件数(述べ件数)は 43 件(テーピングやアイシングなど)だった。試合中に発生した主な外傷としては、足関節捻挫や腰痛等であった。

【第 77 回国民体育大会(いちごー会とちぎ国体)】

いちごー会とちぎ国体の開催期間は 2022 年 10 月 2 日から 6 日までの 5 日間だった。競技会場は日環アリーナ栃木メインアリーナ(栃木県宇都宮市)だった。全国から 24 チームが参加し戦った。

【コロナ感染拡大予防対策】

大会参加日の 14 日前から専用アプリ「GROBAL SAFETY」に体温と健康状態を毎日記録した。さらに、出発前(栃木県に入る 5 日前)に PCR 検査を実施し、検査結果を GROBAL SAFETY へ登録した。また、大会終了後には抗原検査を実施した。大会期間中は、マスク着用、手洗い、3 密回避、換気等の感染対策を実施した。

試合会場は、選手団と一般観覧者のエリアが階層で別れており、外部の人達との接触を遮断する方式が取られていた。

【活動内容】

10 月 3 日 初戦（第 2 試合） vs 京都

試合会場の日環アリーナ栃木内メインアリーナは温度管理されており、適切な環境下であった。試合前の対応として足関節捻挫等に対するテーピングを行った。また、試合中の外傷発生に対応するためにアイスパック等の準備をした。試合中においては、相手選手とのコンタクト時に大腿部に打撲を受けた選手に対して、アイシングと圧迫を実施した。腫れや内出血等はなかった。

【結果】

●広島 65 - 81 京都○

外国人留学生を起用した京都チームに対し、広島県選抜チームの選手たちは最後まであきらめず健闘した。国体期間中にチーム自体の成熟と各選手の成長を感じることができた。

【まとめ】

国体期間中に大きな外傷は発生せず、選手全員が試合出場し戦うことができた。試合前からのコンディショニングとともに試合中の対応、試合後のケアを実施することが大切である。

【謝辞】

今回、帯同の機会を与えて下さいました広島県スポーツ協会、広島県バスケットボール協会、広島県トレーナー協会の皆様に深く感謝申し上げます。

2022 国体(中国ブロック大会)

| | |
|------|---------------------------------|
| 競技種目 | バスケットボール |
| 種別 | 少年女子 |
| 帯同期間 | 2022年 8月26日 ~ 8月28日(3日間) |
| 競技会場 | 広島県立総合体育館大アリーナ |
| 選手 | 12名 |
| スタッフ | ヘッドコーチ 1名、アシスタントコーチ 3名、トレーナー 1名 |
| 競技成績 | 中国ブロック 2位 本国体出場へ |

トレーナー活動集計表

| 項目 | 対象部位 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 頭部 | |
| ② | 顔面 | |
| ③ | 歯・口腔・顎 | |
| ④ | 頸部 | |
| ⑤ | 肩・鎖骨 | |
| ⑥ | 上腕 | |
| ⑦ | 肘 | |
| ⑧ | 前腕 | |
| ⑨ | 手 | |
| ⑩ | 手指 | |
| ⑪ | 背部 | |
| ⑫ | 胸部 | |
| ⑬ | 腹部 | |
| ⑭ | 腰部 | 2 |
| ⑮ | 臀部 | |
| ⑯ | 股・鼠径部 | |
| ⑰ | 大腿 | 2 |
| ⑱ | 膝 | 2 |
| ⑲ | 下腿・アキレス腱 | |
| ⑳ | 足 | 2 |
| ㉑ | 足趾 | 4 |
| ㉒ | その他 | |

| 項目 | 外傷 | 延べ件数 |
|----|----------------|------|
| ① | 捻挫 | 3 |
| ② | 打撲 | 1 |
| ③ | 骨折(歯も含む) | |
| ④ | 脱臼 | |
| ⑤ | 靭帯断裂 | |
| ⑥ | 筋断裂/肉ばなれ | 1 |
| ⑦ | 腱断裂 | |
| ⑧ | 軟骨損傷(半月板損傷も含む) | 1 |
| ⑨ | 筋膜炎/腱炎 | 1 |
| ⑩ | 骨膜炎 | |
| ⑪ | 擦過傷 | 4 |
| ⑫ | 刺切傷 | |
| ⑬ | その他 | 1 |

| 項目 | 治療目的 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 鎮痛 | 9 |
| ② | 疲労回復 | 4 |
| ③ | リラクゼーション | 3 |
| ④ | 筋力増強 | |
| ⑤ | 可動域改善 | |
| ⑥ | 安静固定 | 1 |
| ⑦ | 消毒 | |
| ⑧ | 止血 | |
| ⑨ | その他 | 1 |

| 項目 | 治療内容 | 延べ件数 |
|----|-----------|------|
| ① | アイシング | 16 |
| ② | テーピング | 10 |
| ③ | 弾性包帯 | |
| ④ | 簡易装具 | 5 |
| ⑤ | マッサージ | 3 |
| ⑥ | ストレッチング | 5 |
| ⑦ | マニュアルセラピー | |
| ⑧ | ホットパック | |
| ⑨ | 足低板 | |
| ⑩ | 超音波 | |
| ⑪ | 低周波 | |
| ⑫ | 水治療 | |
| ⑬ | その他 | 4 |

43

| 項目 | 対処場所 | 延べ件数 |
|----|------|------|
| ① | 現場 | 18 |
| ② | 宿舎 | |
| ③ | 医療機関 | |
| ④ | その他 | |

2022 国体(いちごー会とちぎ国体)

| | |
|------|---------------------------------|
| 競技種目 | バスケットボール |
| 種別 | 少年女子 |
| 帯同期間 | 2022年 10月2日 ~ 10月4日(3日間) |
| 競技会場 | 日環アリーナ栃木 メインアリーナ |
| 選手 | 12名 |
| スタッフ | ヘッドコーチ 1名、アシスタントコーチ 3名、トレーナー 1名 |
| 競技成績 | 初戦敗退 |

トレーナー活動集計表

| 項目 | 対象部位 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 頭部 | |
| ② | 顔面 | |
| ③ | 歯・口腔・顎 | |
| ④ | 頸部 | |
| ⑤ | 肩・鎖骨 | |
| ⑥ | 上腕 | |
| ⑦ | 肘 | |
| ⑧ | 前腕 | |
| ⑨ | 手 | |
| ⑩ | 手指 | |
| ⑪ | 背部 | |
| ⑫ | 胸部 | |
| ⑬ | 腹部 | |
| ⑭ | 腰部 | |
| ⑮ | 臀部 | |
| ⑯ | 股・鼠径部 | |
| ⑰ | 大腿 | 1 |
| ⑱ | 膝 | |
| ⑲ | 下腿・アキレス腱 | |
| ⑳ | 足 | 2 |
| ㉑ | 足趾 | |
| ㉒ | その他 | |

| 項目 | 外傷 | 延べ件数 |
|----|----------------|------|
| ① | 捻挫 | 1 |
| ② | 打撲 | 1 |
| ③ | 骨折(歯も含む) | |
| ④ | 脱臼 | |
| ⑤ | 靭帯断裂 | |
| ⑥ | 筋断裂/肉ばなれ | |
| ⑦ | 腱断裂 | |
| ⑧ | 軟骨損傷(半月板損傷も含む) | |
| ⑨ | 筋膜炎/腱炎 | |
| ⑩ | 骨膜炎 | |
| ⑪ | 擦過傷 | 1 |
| ⑫ | 刺切傷 | |
| ⑬ | その他 | |

| 項目 | 治療目的 | 延べ件数 |
|----|----------|------|
| ① | 鎮痛 | 1 |
| ② | 疲労回復 | |
| ③ | リラクゼーション | |
| ④ | 筋力増強 | |
| ⑤ | 可動域改善 | |
| ⑥ | 安静固定 | |
| ⑦ | 消毒 | |
| ⑧ | 止血 | |
| ⑨ | その他 | 2 |

| 項目 | 治療内容 | 延べ件数 |
|----|-----------|------|
| ① | アイシング | 1 |
| ② | テーピング | 1 |
| ③ | 弾性包帯 | 1 |
| ④ | 簡易装具 | |
| ⑤ | マッサージ | |
| ⑥ | ストレッチング | |
| ⑦ | マニュアルセラピー | |
| ⑧ | ホットパック | |
| ⑨ | 足低板 | |
| ⑩ | 超音波 | |
| ⑪ | 低周波 | |
| ⑫ | 水治療 | |
| ⑬ | その他 | 1 |

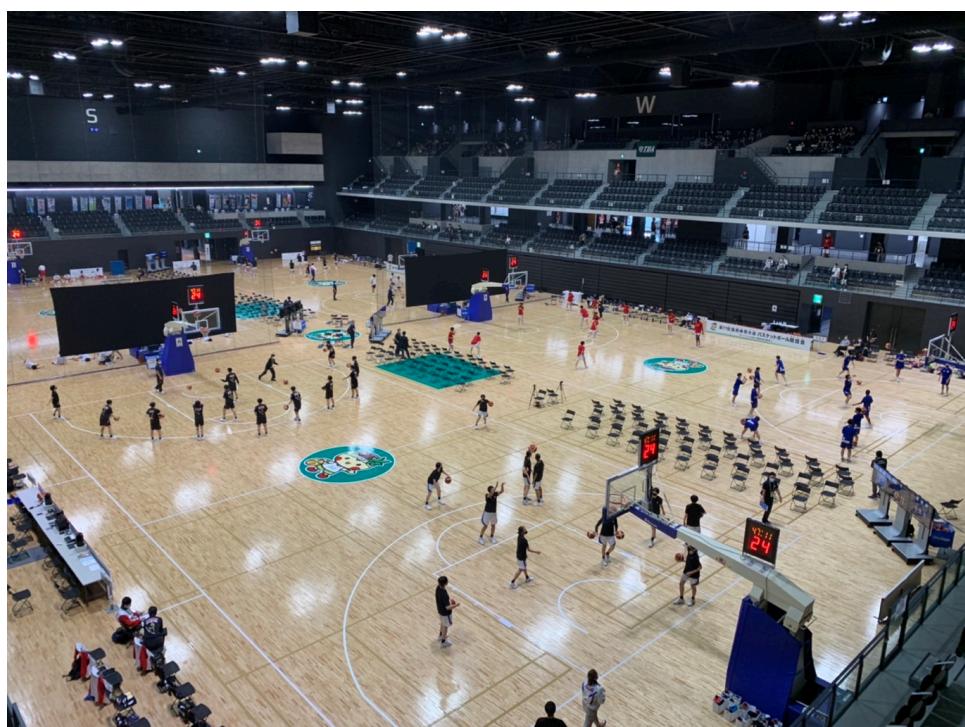
| 項目 | 対処場所 | 延べ件数 |
|----|------|------|
| ① | 現場 | 2 |
| ② | 宿舎 | 1 |
| ③ | 医療機関 | |
| ④ | その他 | |

バスケットボール競技組合せ表

【 少 年 女 子 】

| 都道府県名 | 日程 | | | | | | | | | 都道府県名 | | |
|-------|---------|----------|----------|----------|----------|---------|------|-----|-----|-------|-----|--------|
| | 1回戦 | | 2回戦 | | 3回戦 | | 準々決勝 | 決 勝 | 準決勝 | 3回戦 | | |
| | 10/2(日) | 10/3(月) | 10/4(火) | 10/5(水) | 10/6(木) | 10/5(水) | | | | 2回戦 | 1回戦 | |
| 愛知 | 1 | | | 104 | | | | | | | | 13 柏木 |
| 長野 | 2 | A1 67 | 54 | 114 | | | | | | | | 14 宮城 |
| 山口 | 3 | A1 51 | | | | | | | | | | 15 北海道 |
| 埼玉 | 4 | A2 72 | 81 | A1 93 | | | | | | | | 16 岐阜 |
| 鹿児島 | 5 | A2 57 | B1 81 | 69 | | | | | | | | 17 沖縄 |
| 高知 | 6 | | 94 | | A1 M1 | | | | | | | 18 岡山 |
| 広島 | 7 | | 65 | | | | | | | | | 19 千葉 |
| 京都 | 8 | B2 93 | C2 81 | 104 | | | | | | | | 20 福岡 |
| 秋田 | 9 | | 87 | | B1 74 | | | | | | | 21 石川 |
| 福井 | 10 | B1 52 | | | | | | | | | | 22 香川 |
| 神奈川 | 11 | B1 65 | D2 72 | 82 | | | | | | | | 23 茨城 |
| 宮崎 | 12 | | 87 | | | | | | | | | 24 大阪 |

●日産アリーナ柏木メインアリーナ A・B・C・D・G・M
 (栃木県総合運動公園メインアリーナ)
 ●宇都宮市体育館 E・F



第77回国民体育大会（中国ブロック大会・いちごー会とちぎ国体）

競技種目（種別） ソフトテニス成年女子

所属 ななほし堂鍼灸院

氏名 梶山祥子

【はじめに】

8月20-21日中国ブロック大会（広島市）
10月9-10日第77回国民体育大会（栃木県）
に帯同する機会をいただきましたので報告いたします。

【事前準備】

5月末国体強化選手選考会

8月中国体選手選考合宿

を経て、5名の選手が決定された。

通常の帶同内容の他に下記を実施した。

①合宿期間のコンディショニング

選手選考合宿からブロック大会まで約10日間と長い合宿期間となったため、練習時間の設定や休養について監督と相談して計画した。ケア日にはヨガの先生に依頼してリラックスヨガを実施した。

②本国体前のミーティング

コロナ感染带予防対策として、PCR検査や抗原検査の実施と報告、毎日の体温・体調チェックが義務付けられていたが、他県の選手も多く、理解しにくい点もあったため、徹底させる目的と、チームの団結を高めるため、ZOOMミーティングを行った。

③県独自の検査

広島県ソフトテニス連盟と交渉し、義務付けられている検査にプラスしたPCR検査・抗原検査を実施し、その費用をご負担いただいた。

【活動内容】

- ・アップ／ダウン
(メニューの作成、指導、試合前のサポート)
- ・体のケア
(鍼治療、電気治療、マッサージ、ストレッチ)
- ・コンディショニングサポート
(筋トレ・ストレッチなどセルフケア指導)
(試合時のテーピング、アイシング)
- ※選手によって必要なことを実施。
- ・食事の管理
(昼食の準備とタイミングの声かけ)

例年通り、暑熱対策（特に試合中）をしっかりと行った。また、飲み物の自己管理（準備、量の徹底、ボトルの管理）を徹底した。

・対応した傷害

①合宿・試合前の傷害

腰痛症、大腿部打撲、腱板損傷

②大会期間中の外傷

転倒による下腿打撲

大きな外傷はなく、疲労回復目的のケアが中心となつたが、天候による寒暖差があつたため、コンディショニングへの配慮が必要だった。

【結果】

ブロック大会 優勝（全勝）

②-1 山口県、③-0 鳥取県

②-1 島根県、②-1 岡山県

本国体 7位

2回戦 ②-1 栃木県

準々決勝 1-② 兵庫県

予備戦 0-② 岡山県

順位決定戦 ②-1 徳島県

【反省】

コンディションには影響あつたわけではないが、合宿中の食事の管理、試合期間中の食事内容への配慮が不十分だった。来年は監督としっかり相談して場所や内容の改善をしたい。

最後になりましたが、帯同に際してご協力いただいた、広島県ソフトテニス連盟・治療院のお客様に感謝申し上げます。



第 22 回全国障害者スポーツ大会
(いちごー会とちぎ大会)
活動報告書

第 22 回全国障害者スポーツ大会（いちごー会とちぎ大会）

競技種目（種別）ボッチャ競技

所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名 石田礼乃

【はじめに】

この度、第 22 回全国障がい者スポーツ大会いちごー会とちぎ国体での、ボッチャ競技に広島市選手団のスタッフとして帯同させていただく機会を得たので、ここに報告する。

【事前準備】

全国障がい者スポーツ大会広島市代表内定選手を対象に、広島市心身障がい者スポーツセンターにて、事前公式練習会が行われた。公式練習会では、投球練習のほか試合を想定したゲーム形式の練習を実施した。また、参加選手やその保護者とコミュニケーションを取り、日常生活において選手にどんなサポートが必要なのかを学ぶほか、コミュニケーションを通して選手・スタッフの信頼関係の構築を図った。私自身の役割としては、選手が十分な力を発揮することができるよう、練習前後のストレッチの指導に加え、選手の障がいと投球フォームに沿って自宅でできるストレッチの提案や指導を実施した。

新型コロナウイルス感染対策のため、事前に抗原検査や PCR 検査を実施し、マスクや使い捨て手袋、アルコール消毒液といった個人防護具を手配していただいた。

【活動内容】

10月 27 日（木）に栃木県へ移動した。大会は 10 月 29 日（土）～10 月 31 日（月）の 3 日間で開催された。ボッチャ競技の広島市選手団は、スタッフ 2 名、立位と座位の選手が 1 名ずつの計 4 名であった。

会場は、栃木県那須塩原市にある三和住宅にしなすのスポーツプラザの屋内体育館であった（図 1）。会場と宿舎はバスで約 10 分の距離にあり、県別のバスと福祉タクシーが運行していた。

大会期間中の主な活動内容は、競技前後のコンディショニング対応と日常生活におけるサポートであった。競技時間を考慮して、選手やコーチと相談し、コンディショニングの時間や内容を決定した。選手の要望を確認した後、1 人 45 分程度でマッサージ、ストレッチングを中心としたケアを行った。ホテルでは、選手の疲労回復を目的としたマッサージを中心に実施した。

【結果】

立位と座位の選手が 2 人 1 組で競技を行った。3 チームでリーグが組まれており、その中で総当たり戦であり、1 勝 1 敗で 2 位となった。

【反省】

今大会では、強豪 2 県を相手に 1 勝 1 敗という結果を残すことができた。ただ、選手からは「いつもより足が固まっている」などの身体の状態に関する訴えが多くあった。広島から栃木という 6 時間以上に及ぶ長時間移動に加え、栃木県那須塩原市という気温の低く乾燥する地域で、広島との環境の違いが選手の身体に異変を起こしたことが予想される。その中で、選手の訴えに沿ってコンディショニングやケアに尽力することはできたと考える。また、今回のような状況で、選手が異常を訴えやすいよう、他の帯同スタッフや、選手本人とのコミュニケーションや信頼関係が重要であることを痛感した。

最後になりましたが、本大会に帯同する機会を与えてくださいました関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



図 1 三和住宅にしなすのスポーツプラザ

第 22 回全国障害者スポーツ大会（いちご一會とちぎ大会）

競技種目（種別）卓球（一般卓球）

所属 広島大学大学院医系科学研究科スポーツリハビリテーション学研究室
氏名 長尾拓海

【はじめに】

この度、第 22 回全国障害者スポーツ大会いちご一會とちぎ大会に広島市選手団の卓球競技役員として帯同させていただいたので報告する。

【事前準備】

大会期間の 3 ヶ月前から月数回程度の事前練習会に参加した。競技の練習相手も含め、各選手の基本情報の収集や、移動日、大会前日公式練習日も含めた大会期間中の動きを他役員と共に、相談し当日に備えた。

【活動内容】

10 月 27 日（木）に栃木県へ新幹線で移動し、大会は年 10 月 29 日（土）から 10 月 31 日（月）の 3 日間で開催された。広島市選手団は、役員 3 名、選手 6 名（身体障がい 2 名、知的障がい 2 名、精神障がい 2 名）の計 9 名であった。会場は鹿沼市にある TKC いちごアリーナであった（図 1）。宿舎から会場まではバスで約 30 分要し、複数の選手団との乗り合わせで移動した。

大会期間中の主な活動内容は、大会期間中の引率、競技後のコンディショニングであった。大会期間中の引率については、日常的に車いすを使用している選手が出場していたこともあり、主に車いす移動やバスの座席、会場の座席への移乗時の介助を実施した。その他にも試合前の招集時間といった競技に関するスケジュール管理や、競技時のアドバイスなど活動内容は多岐に渡った。



図 1 競技会場の様子

競技後のコンディショニングに関しては、肩関節周囲に疲労感を訴えた聴覚障がいの選手に対して、スマートフォンで音声認識アプリを併用しながら、ストレッチングを中心としたケアおよび試合前のセルフストレッチングの指導を 40 分程度実施した。

【結果】

障がい区分ごとに 3 名から 4 名のリーグ戦を戦い、6 名の選手のうち優勝が 2 名（身体障がい 1 名、知的障がい 1 名）、3 位が 4 名であった。

【反省】

日頃の成果を十分に出すことができなかつた選手がいた。大会当日までの事前練習会の際にパフォーマンス発揮に向けたサポートとして、日頃からのケアの方法など事前に伝えることのできた内容もあったのではと感じている。

また、バスでの移動時に車いす選手が車いすからバス座席まで移乗する必要があったが、移乗に対する精神的、身体的な疲労が大きく、バスでの移動が困難となった（図 2）。そこで移乗が容易なタクシー移動へ変更することで競技パフォーマンスに影響しないよう努めた。本経験を踏まえ、日常生活動作での不安点など、日常生活レベルで選手を理解し、役員間で共有する必要性を感じた。

最後になりましたが、本大会に帯同する機会を与えてくださいました関係者各位に心より感謝申し上げます。



図 2 移動時に利用したバス

協会活動状況

<定期総会>

日時：2022年5月14日（土）

会場：オンライン

<トレーナー派遣活動>

第10回ばらの町福山ローズカップU12

日時：2022年8月12日～14日

帯同トレーナー：トレーナー協会会員 8名

中四国学生アメリカンフットボール2022

日時：2022年8月27日～10月23日

サイクリングしまなみ2022(前日イベント)

日時：2022年10月29日

帯同トレーナー：トレーナー協会会員 2名

サイクリングしまなみ2022

日時：2022年10月30日

帯同トレーナー：トレーナー協会会員 12名

<大塚製薬工場様との共催セミナー>

「夏場こそ役立つ経口補水療法～熱中症の基礎・水分補給の重要ポイント～」

日時：2022年5月28日（土）

会場：オンライン

講師：利根 義人 株式会社大塚製薬工場 OS-1事業部 営業部

<ワークショップ>

令和4年度広島県トレーナー協会ワークショップ

「張力を保ったまま動く」 講師：森田 憲吾 氏（広島ドラゴンフライズ）

日時：2022年7月31日（日） 会場：朝日医療専門学校広島校

⇒新型コロナウィルス感染拡大のため中止

<認定スポーツトレーナー養成>

広島県トレーナー協会認定スポーツトレーナー養成講習会

2022年4月24日（日） 2021年度養成講習会 学科試験 会場：朝日医療専門学校広島校

2022年7月3日（日） 2021年度養成講習会 実技試験 会場：朝日医療専門学校広島校

<理事会>

第1回：令和4年5/14、第2回：7/14、第3回：8/31、第4回：11/17、第5回：令和5年3/9

広島県トレーナー協会規約

第1章 総 則

第1条（名称）

本会は、広島県トレーナー協会（以下「協会」という）という。

第2条（事務所）

協会は、事務所を広島市に置く。

第3条（目的）

協会は、会員相互の知識、技術の研鑽を行うとともに、スポーツ選手及び愛好者に対するコンディショニングについての指導、啓発等を行うことにより、健全なスポーツの発展に資することを目的とする。

第4条（事業）

協会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- ① スポーツ選手に対するコンディショニングについての技術指導等のレベルアップを図るため、会員の研修を行うこと。
- ② 競技団体、学校などの要望により、必要なトレーナーを派遣すること。
- ③ その他協会の目的達成に必要な事業を行うこと。

第2章 会 員

第5条（会員となる資格）

協会の会員となる資格は、協会の目的に賛同する個人とする。

第6条（入会）

会員になろうとする者は、入会申込書を会長に提出し、理事会の承認を得なければならない。

第7条（入会金及び会費）

- (1) 会員になろうとする者は、総会において別に定める入会金を納入しなければならない。
- (2) 会員は総会において別に定める会費を納入しなければならない。

第8条（退会）

- (1) 会員は、退会しようとするときは、会長に届け出なければならない。
- (2) 会員が死亡したときは、退会したものとみなす。
- (3) 会費を2年間納入しないときは、退会したものとみなす。

第9条（除名）

- (1) 会員が協会の名誉を棄損し、又はその設立の趣旨に反する行為をしたときは、総会において総会員の4分の3以上の議決により、これを除名することが出来る。

- (2) 前項の規定により会員を除名しようとするときは、除名の決議を行う総会においてその会員の弁明の機会を与えねばならない。

第10条 (提出金品の不返還)

退会し、または除名された会員がすでに納入した会費その他の提出金品は、返還しない。

第3章 役員及び職員

第11条 (役員の種別及び選任)

- (1) 総会に、次の役員を置く。

- ① 名誉会長 1人
- ① 会長 1人
- ② 副会長 3人以内
- ③ 理事 12人以上16人以内（会長及び副会長を含む）
- ④ 監事 2人

但し、①においては、理事会において推薦し、総会において承認をえる。

- (2) 理事は、総会において選任する。

- (3) 理事及び監事は、相互に兼ねることが出来ない。

第12条 (総務)

- (1) 名誉会長は、協会の運営全般を統括する。

- (2) 会長は、協会を代表し、会務を統括する。

- (3) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、会長があらかじめ指名した順序によって、その職務を代行する。

- (4) 理事は理事会を構成し、会務の執行を決定する。

- (5) 監事は、民法（昭和29年法律89号）第59条の職務を行う。

第13条 (任期)

- (1) 役員の任期は、3年とする。但し、補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。

- (2) 役員は、再任されることが出来る。

- (3) 役員は、辞任した場合又は任期終了の場合においても、後任者が就任するまでは、その職務を行わなければならない。

第14条 (解任)

- (1) 役員に、役員としてふさわしくない行為があったときは、総会の議決により解任することができる。

- (2) 第9条第2項の規定は、前項の規定により、役員を解任しようとする場合に準用する。この場合において、同項中「前項」とあるのは、「第14条第1項」と、「会員」とあるのは「役員」と、

「除名」とあるのは「解任」と読み替えるものとする。

第15条（事務局）

- (1) 協会の事務を処理するために、事務局を設け、必要な職員をおく。
- (2) 事務局に関し、必要な事項は、会長が別に定める。

第4章 会議

第16条（種別）

協会の会議は、総会及び理事会の2種とし、総会は、通常総会及び臨時総会とする。

第17条（構成）

- (1) 総会は、会員をもって構成する。
- (2) 理事会は、理事をもって構成する。

第18条（権能）

- (1) 総会は、この規定に別に規定するものその他、次の事項を議決する。
 - ① 事業計画の決定
 - ② 事業報告の承認
 - ③ その他協会の運営に関する重要な事項
- (2) 理事会は、この規約に別に規定するものその他、次の次回を議決する。
 - ① 総会の議決した事項の執行に関すること
 - ② 総会に付議すべき事項
 - ③ その他総会の議決を要しない会務の執行に関すること

第19条（開催）

- (1) 通常総会は、毎年1回以上開催する。
- (2) 臨時総会は、理事会が必要と認めたとき又は会員の5分の1以上もしくは監事から会議の目的たる事項を示して請求があったときに開催する。
- (3) 理事会は、会長が必要と認めたとき又は理事会の3分の1以上から会議の目的たる事項を示して請求があったときに開催する。

第20条（招集）

- (1) 会議は、会員が招集する。
- (2) 総会を招集するときは、会員に対し、会議の目的たる事項及びその無いようならびに日時及び場所を示して、開会の7日前までに文書をもって通知しなければならない。

第21条（議長）

- (1) 総会の議長は、その総会において、出席会員の中から選任する。
- (2) 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

第 22 条（定足数）

会議は、総会においては会員、理事会においては理事の 2 分の 1 以上の出席がなければ開催することができない。

第 23 条（議決）

- (1) 総会の議事は、この規約に別に定めるもの他、出席会員の過半数の同意をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。この場合において、議長は会員として議決に加わる権利を有しない。
- (2) 理事会の議事は、出席理事の過半数の同意をもって決する。

第 24 条（書面表決等）

やむを得ない理由のために会議に出席できない会員又は理事は、あらかじめ通知された事項について書面をもって表決することができる。この場合において、前 2 条の規定の適用については出席したものとする。

第 25 条（議事録）

- (1) 会議の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
- ① 会議の日時及び場所
 - ② 会員又は理事の現在異数
 - ③ 会議に出席した会員の数又は理事（会長及び副会長を含む）の氏名（書面表決者を含む）
 - ④ 議決事項
 - ⑤ 議事の経過及び要領並びに発言者の発言要旨
 - ⑥ 議事録書名人の選任に関する事項
- (2) 議事録には、議長及び出席した会員又は理事の中からその会議において選出された議事録署名人 2 名以上が書名しなければならない。

第 5 章 資産及び会計

第 26 条（資産の構成）

協会の資産は、次に掲げるものをもって構成する。

- ① 入会金及び会費
- ② 寄付金品
- ③ 事業に伴う収入
- ④ 資産から生じる収入
- ⑤ その他の収入

第 27 条（資産の管理）

資産は、会長が管理し、その方法は、理事会の議決により定める。

第28条（経費の支弁）

総会の経費は、資産をもって支弁する。

第29条（予算及び決算）

- (1) 協会の収支予算は、年度開始前に総会の議決により定め、収支決算は年度終了後2ヶ月以内に、その年度末の財産目録とともに、監事の監査を経て、総会の承認を得なければならない。
- (2) 年度開始前に予算が成立しないときは、成立する日まで前年度予算を施行する。
- (3) 前項による収支は、新たに成立した予算に基づくものとみなす。

第30条（会計年度）

協会の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 顧問

第31条（顧問）

- (1) 協会に顧問を置くことができる。
- (2) 顧問は、総会の推薦した者につき、会長が委嘱する。
- (3) 顧問は、会長の諮詢に応じる。

第7章 規約の変更及び解散

第32条（規約の変更）

この規約は、総会において会員の4分の3以上の同意を得なければならない。

第33条（解散及び残余財産の処分）

- (1) 協会を解散しようとする場合は、総会において総会員の4分の3以上の同意を得なければならない。
- (2) 解散の時に存する残余財産は、総会の議決を経て、協会と類似の目的を持つ団体に寄付するものとする。

第8章 雜則

第34条（委任）

この規約の施行について必要な事項は、理事会の議決を経て別に定める。

付則

本規約は平成9年3月15日より一部改正により施行。

本規約は平成11年3月19日より一部改正により施行。

本規約は平成21年4月9日より一部改正により施行。

広島県トレーナー協会細則

I. 理事に関する項

1. 本会の理事は、会長、副会長、理事とする。
2. 本会の理事は、理事会を持ち、本会の会務を執行する。
3. 本会の理事は、会務をそれぞれ担当し、円滑な運営に努める。

II. 監事に関する項

1. 監事は、規約第12条により第4項の職務を行う。

III. 会務の運営に関する項

1. 会長は、局・部及び委員会を置き、会務運営にあたる。
2. 局長は、会長の任命を受けて局を統括する。
3. 担当理事は、会長の任命を受けて部を統括する。
4. 部長は、理事会の承認を得て会長の任命を受けて、部を運営する。部員は、部長が選任し会長が委嘱する。
5. 委員長は、理事会の承認を得て会長の任命を受けて、委員会を運営する。委員は委員長が選任し会長が委嘱する。
6. 会長が必要と認めるとき、理事会の承認を得て特別委員会を時限的に置くことができる。
7. 特別委員長は、理事会の承認を得て特別委員会を運営する。特別委員は特別委員長が選任し会長が委嘱する。
8. 会長が必要と認めるとき、部長・委員長及び特別委員長は、理事会で意見を述べることができる。
9. 局・部及び委員会の分掌規定は別に定める。

IV. 会費に関する項

1. この会費は、年額6,000円とする。ただし、学生会員の会費及び11月第4日曜日以降に入会した会員の初年度会費を3,000円とする。
2. この会の登録料は、3,000円とする。
3. 本会の会費は、原則として7月31日までに全納するものとし、会費が納入された時点で会員としての議決権を得るものとする。
4. 退会する会員が退会以前に登録料・年会費を未納の場合は、全納した時点で退会と認めるものとする。

V. 選挙に関する項

1. 役員の選挙は、規定第11条第2項に基づき、この規定によって行う。
2. 選挙を行うため、選挙管理委員会を置く。

3. 選挙管理委員会は、会員の中より 5 名以内を互選して構成する。理事及び当該の選挙の候補者は、選挙管理委員会にはなれない。
4. 選挙管理委員の任期は、2 年とする。
5. 選挙管理委員会は、投票 50 日以前に選挙すべき役員の定員を公示し、立候補を受けなければならない。立候補の締め切り日は、投票 14 日以前とする（郵送による立候補届の当日消印は有効とする）。
6. 理事の選挙は、会員の自由意志により立候補できる。
7. 立候補者が定員に満たないときは、理事会において候補者を推薦する。
8. 選挙管理委員が立候補したときは、別の選挙管理委員を選出し、立候補者は委員を辞退する。
9. 選挙は、無記名投票により行う。
10. 投票用紙は、選挙管理委員が定める用紙を用い、定数を超えて投票したものは無効にする。
11. 投票場の開閉時間は、選挙管理委員会が公示する。
12. 有効投票は、投票総数の 3 分の 2 以上を必要とする。
13. 候補者が定員の場合は、無投票当選とする。
14. 当選者が当選の当日から任期開始後 60 日までの間に退会、若しくは正当の理由で辞任又は辞退したときは、次点者を繰り上げ当選者とする。
15. 役員の選挙は、次の順序で行う。
 - ① 理事（定員連記投票）
 - ② 会長は、理事会において指名し、総会の承認を受ける。
 - ③ 副会長は、理事会の中から会長が指名し、総会の承認を受ける。
 - ④ 監事は、理事会において指名し、総会の承認を受ける。
16. 開票に関しては、立会人を 2 名置かなければならない。立会人は選挙管理委員が選任する。

VII. 付則

1. この細則の改廃は、総会の承認を得なければならぬ。
2. この細則は、平成 9 年 3 月 15 日より施行。
3. この細則は平成 10 年 4 月 25 日に、一部改正。

編集後記

広島県トレーナー協会年会誌は、かつて主流であった紙媒体での形式を今年度から電子化しました。これにより枚数制限がなくなり、図表・写真をカラーで配信できるようになりました。さらに印刷・製本、配送にかかる物理的コストが削減できます。またペーパーレスは環境にもやさしいと考えられます。

オンラインジャーナル（電子ジャーナル）は、情報のオープン化、迅速化、入手しやすさが期待できます。この学会誌を電子化する流れは、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会（JOSKAS）や日本アスレティックトレーナー学会誌でみられていました。広島県トレーナー協会年会誌においても電子化を進め、より多くの方に情報の共有ができるようにしていきたいと考えております。

2023年3月

年会誌編集担当：広島国際大学 加藤茂幸

広島県トレーナー協会年会誌掲載用の「国体活動報告書」について

【投稿規定】

- 1) 原稿は、A4 サイズ、2段組み。
- 2) 掲載用の写真もあればあわせて送ってください。
- 3) 各項目について執筆ください。
 - i はじめに
 - ii 事前準備
 - iii 活動報告
 - iv 結果
 - vi 反省
- 4) 原稿の提出は e-mail にて提出してください。
sigekato@hirokokku-u.ac.jp 広島国際大学 加藤まで
- 5) 提出締め切り日は国体終了後およそ 1ヶ月以内 (11月中旬ごろまで)。

広島県トレーナー協会ホームページ <https://www.hiroshima-trainer.com>

広島県トレーナー協会 年会誌 第24巻
Journal of Hiroshima Trainers Association (Vol.24)

発行：2023年4月1日（年1回発行）

編集：広島国際大学 加藤